

36 「オルトペディ」の造語者、ニコラ・アン
ドリ (一六五八—一七四二) (その一)

小林 晶

福岡整形外科病院

「オルトペディ (Orthopédie)」という言葉は、フランスの内科医ニコラ・アンドリ (Nicolas Andry, 1658-1742) によって造語された。発端となったのは、一七四一年パリで出版された「オルトペディ、小児の身体変形を予防、矯正する技術。両親と育てる子供を持つ人々ができる全て」と長い副題が付いた著書である。

この言葉の由来を述べる前に、アンドリの略歴を記しておく。彼は一六五八年フランスのリヨンに生まれた。サン・ニジェ教会に残された洗礼式は八月二四日に行われている。

初等教育はリヨンで受け、パリのコレージュ・グランドサンで二年間神学を学んでいる。一六九〇年三二歳の時還俗し、三五歳からパリ大学の姉妹校であったラン

ス (Reims) 大学医学部に入学した。のちパリに移り、三九歳で卒業している。そして、一七〇一年四三歳で助教となる。翌年、彼と関係が深くなる *Journal des Savants* の編集長、一七二二年五四歳で教授に就任した。以後、医学部長、学長を歴任し、一七四二年三月一三日死亡、パリのサン・ロック教会に埋葬された。八四歳であった。

彼の卒業論文は現在から見れば、奇異な悪ふざけともとれる。「患者治療中、医師の陽気さと患者の服従が得られる行動について」という題である。この時代には「音楽は健康に必要か?」、「ヒロイズムは父親から子供に伝わるか?」、「女性は男性より治癒し易いか?」のような論文がみられる。

生涯に著した論文は二二編ある。有名なのは「人体における寄生虫の発生について (一七〇〇)」、前述の「オルトペディ」および「オルトペディ続編 (一七四二)」である。

「寄生虫の発生」は、呼吸や食物で感染するとし、人体の部分により寄生虫を分類した。精虫も寄生虫の一

種として記述している。既に発明されていた、顕微鏡を使用し、寄生虫の形態を、詳細且つ精巧に描いた挿図が多数挿入されている。

さて、問題の「オルトペディ」という語は、小児の変形を予防、矯正するのに、彼自身の観察、考案を通して得た意見、方法を集約した著書の表題である。この語を造るに当たって、感銘を受けた二冊の著書を参考にしてゐる。一つはセヴォル・ド・サントマルトによる「乳児を育てる方法」(Pedotrophie; 1584) である。

これはギリシヤ語起源の言葉で、子供を意味する *pédo*=*paidion* の *trophie*=*trophe* (栄養) の二音節で成り立っている。もう一つはクロード・キレの「優れた子供を得る方法」(Callipédie; 1656) で、*calli* は *kalos* = 優しい、美しい、の意味である。

これら二著に示唆されて、アンドリは自著に、ギリシヤ語の「真つ直ぐ、あるいは正しい」を意味する、*orthos* と、*pédie* を合成して「オルトペディ」(*orthopédie*) を造語し表題とした。この言葉が著書の内容に合致すると考えた。

翌年ベルギーで、次いでロンドンで英語版、ベルリンでドイツ語版が相次いで出版された。折から啓蒙時代であり、知識のない人達への疾病・予防への努力の必要性が強調されていて、世に受け入れられたと考えられる。

後に、オルトペディの「ペディ」が足を意味する *pes* で、「足の矯正」とか、*paideis* (教育) ではないか、などの論議が出現した。「オルトペディ」ではなく、「*orthomorphie*」だとするデルペシユの提唱は有名で、この題で教科書を執筆している(一八三八年)。

しかし、「オルトペディ」は、運動器の疾病を予防、矯正、治療する専門科の呼称として、世界に徐々に定着していった。原意と異なり、小児のみならず成人をも対象とし、手術的治療が導入されて以来、*orthopaedic surgery* となっている。これが田代義徳により、わが国では「整形外科学」と呼称されたのは明治三十九年(一九〇六)のことである。今回はアンドリの「オルトペディ」の内容と、その続編について述べる。